

# 特集

〈事例〉

## 就業相談会や特典サービス、 カルチャー講座等で認知度向上

公益社団法人  
甲賀市シルバー人材センター

(滋賀県)

甲賀市SCは、ハローワークでセミナーや就業相談会を開催し、会員拡大につなげている。また、広報誌の配布、独自CMの制作・放映、会員特典サービス制度、カルチャー講座など、多様な手段を講じ普及啓発活動を展開。『月刊シルバー人材センター』は、現在50部購読。職員用とは別に来所者の閲覧用を事務所に置くほか、市内図書館や公共施設にも配布して認知度の向上を図っている。

### ハローワークでセミナーと 就業相談会、会員拡大図る

甲賀市は、日本遺産に認定された「信楽焼」と「甲賀流忍者」で知られる滋賀県東南部のまち。

甲賀市SCは、旧五町のセンターを統合して、平成十七年に設立した。契約金額と会員数は、新型コロナウイルス（以下、新型コロナ）感染拡大の影響を受けているものの、この七、八年は堅調を維持している。

その要因の一つが、ハローワークの専用コーナーで毎週金曜日、定年を迎えた人たちの再就職支援を目的に開催している「シニアセミナー」だ。新型コロナウイルス

前は定員を二十人としていたが、現在は定員十人で実施。同セミナーへの参加は、ハローワークで就職活動実績として認められるため、ほぼ毎回満席となっている。

また、毎週火・金曜日にはハローワークで「就業相談会」を開催。対象は、就業相談にハローワークに来所した六十歳以上。シルバー人材センターの仕組みについて個別に説明し、会員拡大につなげている。

### 写真をメインにした 広報誌を年二回発行

センターの活動内容などを紹介する広報誌「シルバーこうか」を毎年一月と八月に発行。約三万部



甲賀市SCの広報誌「シルバーこうか」  
(年二回発行)

を全戸配布するほか、市役所や地域市民センターにも置いて、認知度の向上に役立てている。

「広報誌はセンター関係者以外の人も分かりやすく見やすいよ

高齢者対象のワクチン集団接種会場には、滋賀県SC連合会のポスターを掲示して、シルバー人材センターをPR



う、写真をメインにカラフルな誌面にしています」と宮崎弘志次長。令和三年一月発行分では、各種講座の模様や、シルバー環境美化の日のボランティア活動を写真で紹介した。

また、「高齢者活躍人材確保育成事業」の講習会を開催する際は、案内チラシを全戸配布して受講者

を募集するとともに、会員拡大と就業先開拓、認知度の向上を図っている。

このほか、市が毎月発行する広報にセンターの記事を出稿し、高齢者対象のワクチン集団接種会場には滋賀県SC連合会（以下、連合会）のポスターを掲示。常時、ホームページやFacebookでも情報を発信している。

### 特典サービスやカルチャー講座で認知度を狙う

普及啓発にはマスメディアも活用している。毎年十月の「シルバー人材センター事業普及啓発促進月間」には、地元ケーブルテレビで甲賀市SCの独自CMを放映し、会員がいきいきと働く姿をオリジナルソングとともに紹介している。令和二年度からは、地域経済活性化応援事業として、「フレンドリーショップ制度」をスタートした。これは、会員証を提示するだけで地域の協力店で商品の割引などを

さまざまな特典サービスを受けられる制度で、門真市SC（大阪府）の勧めで始めた。

協力店は、個人経営の飲食店や大手量販店、自動車教習所など七十六店舗（令和三年七月二十日現在）。協力店を広報誌「シルバーこうか」で紹介したところ、特典サービスを目的に入会を希望した人もいたという。また、協力店からは調理関係の仕事の発注もあり、会員増と就業先の開拓につながっている。

また、会員が講師を務めるカルチャー講座も、普及啓発に役買っている。

同センターは現在、会員に就業機会を提供しているが、今後は、自己実現を目指した「学び」、楽しい仲間との「遊び」、ボランティア活動を通じた地域への「参画」の機会の提供にも力を入れていく。カルチャー講座はその一環で、会員が長年培ってきた豊富な知識・経験、技能、特技を生かせる場所

づくりと、市民の生涯学習に貢献することを目的としている。

ワークプラザなどを利用して行うカルチャー講座は、太極拳やパソコン、切り絵、リズム体操、鉛筆デッサン、英会話とさまざま。

令和二年度は、センター未入会の市民を含めた延べ千三百六十三人が受講した。

カルチャー講座で製作した作品を発表する場も設けている。令和二年度は二月二十五日～三月五日にショッピングセンター「アル・プラザ水口」のフリースペースで作品展を開催。七百九十三人が来場した。令和三年度は八月二～三十日に「滋賀銀行水口支店」で開催後、九月から翌年三月まで市内五か所の図書館を巡回する。

また、令和三年度から、より優れた技能、知識、経験などを有し、市内外での積極的な活動を希望する会員を「甲賀市シルバーマイスター」と認定する「シルバーマイスター制度」を導入した。

「シルバーマイスターを地域団体や企業に講師として派遣して、出前講座を行う事業を検討しています。シルバーマイスターに学習活動などの講師や指導者として活躍する機会を提供することで、就業機会の拡大と地域住民との交流を図りたいと考えています」と平林秀樹常務理事兼事務局長。

すでに、自治会から出前講座の依頼もあるという。

## 本誌を公共施設に配布

甲賀市SCでは、『月刊シルバー人材センター（以下、月刊シルバー）』も普及啓発に活用している。

同センターの従来の購読部数は二十五部だったが、令和二年二月号の「わが故郷じまん」に、甲賀市を舞台にしたNHK連続テレビ小説「スカーレット」を絡めて寄稿した際は、掲載誌を百部購入して公共施設に配布。令和二年四月からは購読部数を二十五部増の五十部とし、同年二月号の掲載誌を



シルバーカルチャー講座の「おとなのぬりえ教室」は、キャンセル待ちが出るほど人気を集めた（写真上・写真左）。写真下は、シルバーカルチャー講座受講者の作品展。令和2年度は、ショッピングセンター「アル・プラザ水口」のフリースペースを活用して開催



配布した市内五か所の図書館と、甲賀市社会教育スポーツ課を通じて十三か所の公民館に継続して配布し、普及啓発を図っている。

このほか、センターの理事・監事十六人と支部長五人、市役所に送付し、事務局では職員が回覧。来所者が利用する相談コーナーに設置している五台のテーブルにも

置き、バックナンバーはロッカーに保管している。毎月、五部程度余るよう購入し、俳句などが掲載された会員に渡しているという。

さらに、平成二十八年一月号く三十年十二月号の本誌三年分をまとめた「CD・ROM版月刊シルバー人材センター」も購入した。平田正男理事長（連合会会長兼任）

は、「センターごと、コーナーごとの検索がしやすいので、活用しています」と話す。

平田理事長には、本誌に多数寄稿いただいている。また、熱心な読者の一人で、特に好きなコーナーは、「事務局職員奮闘記」と「わがセンターここに人あり」だと言う。「以前、いろいろなことに挑戦

『月刊シルバー人材センター』は、甲賀市の図書館にも配布されている



している他センター職員の寄稿も読んで感激し、激励のメールを送ったことがあります。月刊シルバーを通して、こうした職員の真剣さ、業界全体に広がってほしいと思っています。

一方、本誌を普及啓発に活用するには課題があるという。

平林事務局長は「当センターは、月刊シルバーを公共施設に置いています、業界誌であることから

一般受けする内容が少なく感じています。誰もが楽しめる情報をもっと盛り込んでもらえれば読者層が広がり、シルバー人材センターの普及にもつながると考えています」と話す。

甲賀市SCでは、一般市民向けは「シルバーこうか、会員向けは「シルバーだより」と区別して広報誌を作成しているという。

宮崎次長からは「月刊シルバーも、冊子の表紙を変えたり、一般受けする情報を盛り込むなど、ページ数は少なくてもいいのでセンター関係者以外が読んでも楽しめるような内容の冊子を発行してもらえれば、啓発活動がより効果的に行えると思います」との意見をいただいた。

### イメージチェンジを期待

甲賀市SCの喫緊にして永遠の課題は、就業機会と会員の拡大である。平林事務局長は「アフターコロナに向けて、どのような取り

組みをしていけばいいのか、参考になるような好事例を月刊シルバーで紹介していただきたい」と要望する。

「シルバー」といえば、清掃や剪定・除草などの屋外作業のイメージが強い。そのことから、働きたいと思える魅力ある仕事がないのでは、と入会をちゅうちよする人がいる。その課題解決策として同センターでは、シルバー人材センターのイメージチェンジに取り組んでいる。

例えば、広報誌「シルバーこうか」の裏表紙には会員募集案内を掲載しているが、就業内容は最初にスパーやホームセンターでの品出し、公共施設の受付事務などを記載し、除草や剪定などは最後に載せている。これは、シルバー人材センターといえば剪定・除草というイメージを払拭したいとの考えからである。

また、「広報誌の誌面と同様に、事務所のインテリアもパステルカ

ラーなどを使って、明るいイメージづくりに努めています。独自CMもイメージチェンジを狙って制作したので、シルバー人材センターへの印象が変わればと期待しています」と宮崎次長は語った。

(井本旬子)

事業運営状況 (平成28年度～令和2年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成28	720	456	1,176	3.9	789 (69,408)	67.1	2,977	331,953	18.4/81.6
29	718	463	1,181	3.9	771 (71,846)	65.3	3,087	338,404	17.8/82.2
30	723	468	1,191	3.9	850 (70,115)	71.4	2,851	340,001	17.3/82.7
令和元	720	481	1,201	3.9	816 (71,872)	67.9	2,795	358,553	17.9/82.1
2	700	460	1,160	3.7	770 (62,367)	66.4	2,578	314,652	19.4/80.6

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業が対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む